

- 大阪府の森林は、北から摂津、生駒金剛、和泉葛城の三山系からなり、大阪平野を取り巻く形で位置しています。森林率は、全国の67%に比べ31%と全国最低ではあるものの、人工林率は49%と全国平均の41%を上回っています。また、森林の98%を民有林が占め、その内の約9割が私有林となっています。
人工林蓄積は、奈良吉野林業の流れを汲み、約300年もの伝統に培われた河内林業地帯を擁する南河内、泉州東部地域で約45%を占めている。南河内、泉州東部地域以外の地域は、アカマツ、クヌギ、コナラ等が多く、全般的に人口林率は低い。
- 民有林では、全般的にスギ、ヒノキの人工林の多くが間伐等の施業が必要な育成段階にありますが、保育施業対象外となる12齢級（56～60年生）以上の割合も増加してきており、資源としての本格的利用が可能となる段階に入りつつあります。
一方、府域内の国有林は1千haと僅かながら、奥地脊梁地帯から中山間、都市近郊に広く分布しており、それぞれの国有林のおかれた自然的・社会経済的特性を反映し、国土の保全、水源の涵養、保健・文化・教育的な利用の場として、森林の多面的機能の発揮に寄与しています。
- 大阪府との地域林政連絡会議では、共通の地域課題を持つ箕面市も参画し、平成27年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成28年度の民国連携の取組に向けて、野生鳥獣被害対策とナラ枯れ被害対策の推進について、意見交換を行いました。
また、今年度より連絡会議の場だけでなく、日頃から府庁、各農と緑の総合事務所、京都大阪所の担当者間で、それぞれの情報共有を図ることとしました。
- 国有林が所在する市町村の地域課題や共通課題について、各種会議等の場を利用して幅広い情報収集を行っており、それぞれの市町村が抱えている鳥獣被害対策等の地域課題について、民国が連携した取組を展開しています。



【大阪府・箕面市との地域林政連絡会議の様子】



【育林の低コスト化にむけた現地検討会（箕面国有林）】

森林病虫害の防除

【課題】 ナラ枯れ被害対策の推進（継続）

【取組状況】

- ・ 箕面市内のナラ枯れに関する情報交換会に参画し、民有林、国有林におけるナラ枯れ被害の情報共有をした。
- また、箕面周辺でのナラ枯れの調査結果、樹幹注入、ネット等による防除対策に関する情報について、市内を中心に活動しているNPO法人みのお山麓保全委員会などのボランティア団体から情報提供を受けた。今後も引き続き連携して取り組んでいくことや、定期的な情報交換会の開催を確認した。（みのお山麓保全委員会のナラ枯れ防止グループは、その活動が評価され、平成27年度森林病虫害獣害防除活動優良事例コンクールにおいて表彰された。）

【成果と今後の課題】

- ・ 民有林と国有林がナラ枯れ被害と対策等に関し共有した情報をもとに、迅速な対策を実施する必要。
- ・ 府内は、27年度にナラ枯れ被害量が急増。大阪府としても、主要道路沿いにおける倒木対策を重点的に実施することとしているが、限られた補助金のなかで効率的な対策が必要。
- ・ 国有林内で発生した被害木については、伐倒駆除等を実施。



【情報交換会の様子】

鳥獣被害の防除

【課題】 野生鳥獣被害対策（継続）

【取組状況】

- ・ 明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の分科会に参画し、被害防止対策等について意見交換を実施。
- ・ 平成28年度より、箕面市鳥獣被害対策協議会にオブザーバーとして参画し、連携した取組について検討。
- ・ 大阪府立環境農林水産総合研究所と連携し、国有林を含む北摂地域におけるシカ生息密度を把握するための糞塊調査を合同で実施。

【成果と今後の課題】

- ・ 箕面市、大阪府猟友会、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会と連携し、箕面森林ふれあい推進センターが主体となり、くくり罠によるニホンジカ等の捕獲を実施（クマ出没情報をみながら）。あわせて首用くくり罠による試験的な捕獲も実施。
- ・ 市内で開催された生物多様性研究フォーラムにおいて、増えすぎたシカの実態、モニタリング調査の状況、大阪府猟友会箕面支部長による現場の声を報告し、ニホンジカ捕獲対策等の必要性を広く府民等へ周知した。
- ・ 引き続き、地域と連携した個体数管理を継続。



【くくり罠設置の様子】



【フォーラムの様子】